

アジア研究センター共同研究一覧

継続課題

アジアの政治発展（2018年度～2020年度）

【研究代表者】 大川千寿（法学部准教授）

【研究分担者】 〔学内〕 松平徳仁（法学部教授）、石井梨紗子（法学部准教授）、孫安石（外国語学部教授）、
村井寛志（外国語学部教授）、後田多敦（外国語学部准教授）
〔学外〕 佐橋亮（東京大学東洋文化研究所准教授）

【研究の目的】

世界的な民主主義の後退傾向が指摘されている。先進民主主義国でのポピュリズムの蔓延だけではなく、未だ民主化の途上にあるアジア等の国でも民主主義は様々な障害に直面している。その背景には、メディアの多様化や地域格差、合意形成の難しさなどもあるが、①民主主義が経済成長の前提になるという「公式」の崩壊、代替的成長モデルの魅力の高まり、②外国勢力による民主主義社会への干渉も指摘され始めている（選挙干渉、シャープパワー）。たとえば市民社会が発達しているフィリピンでも民主主義に逆行する動きも見られる。このような民主主義を取り巻く状況は、政治学者、憲法学者らの大きな関心を集めるにいたっている。さらにいえば、アイデンティティ政治は高まっており、いわゆる戦後政治の枠組みをめぐる少数者から自決を求める問題提起も多々みられている。本研究グループでは、戦後国際秩序の基盤をなしてきた民主主義が今、転換点にあるという問題意識に立って、研究を進めるものである。

【2019年度の研究活動報告】

〈本研究予算を用いての海外出張〉

出張者：松平 徳仁（所員 神奈川大学法学部教授）

出張先：Taipei Fullerton Hotel -South（台湾）

日 程：2019年10月31日（木）～11月5日（火）

目 的：東アジア比較憲法の研究調査（台湾のメディア法制と軍事法制）

〈公開研究会〉

◆日 時：2019年5月24日（金）

会 場：3号館305教室

テーマ：「ポストひまわりの台湾—選挙・政治・安保」

報告者：千北辰（台湾 退役 陸軍少将）

◆日 時：2019年11月13日（水）

会 場：8号館814教室

テーマ：「新しい世界の話をしよう」—フェイクニュース、デジタルポピュリズム、デジタル権威主義の輸出がもたらす世界—

報告者：一田 和樹（『フェイクニュース』『犯罪事前捜査』の推理作家）

◆日 時：2019年12月9日（月）

会 場：3号館206教室

テーマ：「朝鮮半島関連の戦後補償問題について」

報告者：金昌浩（弁護士）

本共同研究グループが開いてきた2018年度以来の研究会等の内容やそれらを通して得られた知見については、研究代表者による『「アジアの政治発展」共同研究 これまでの歩み』『神奈川大学アジア・レビュー』（Vol.7）にて報告している。

研究メンバーは、それぞれの専門分野の研究を各自進めながら、本共同研究にも参画している。本研究がカバーすべき地域や事項が広範であることもあり、これまでは研究目的に沿う特に重要となることに関し、専門家にヒアリングを行い議論・考察することに重点を置いてきた。

その中でも、例えば研究代表者は現代日本政治を専門としているが、教科書（編著、2020年3月刊行予定）の執筆を進めるうえで本共同研究における議論が大変参考になった。また、2019年度は2度にわたりカンボジアの若手政治関係者招へい事業（外務省）において日本の民主主義に関する講義を行う機会を得て、本研究との関連を意識しながらカンボジア政治に関する関心を深めることができた。他のメンバーも本共同研究を通して、同様の有意義な示唆を得られたものと信じている。

来年度が本共同研究の最終年度にあたっているため、各メンバーが関連した研究成果をより明確に示していくとともに、研究グループとして、今後のアジアの政治と民主主義の発展に資する何らかの具体的な方向性を見いだしたいと考えている。

継続課題

アジア圏における文化の生成・受容・変容（2019年度～2021年度）

【研究代表者】 中林広一（外国語学部准教授）

【研究分担者】 〔学内〕阿部克彦（経営学部准教授）・呉春美（経済学部特任教授）・鈴木陽一（外国語学部教授）・松本和也（外国語学部教授）

【研究の内容】

本研究は、昨年度までの研究班「東アジアにおける東西文明の出会い或いは衝突」のテーマを発展的に受け継いだものであり、アジア圏を対象として、文化の「出会い」やそのことがもたらす「衝突」のあり方を検討することに目的を定める。

検討に当たってはアジア圏で生成された自然観、宗教、美術、食文化、文学等々の事象や作品を入口としつつ、そこに入りこんだ様々な影響、さらにはそれが他エリアで受容されていく過程でどのような変容が生じていくのか明らかにしていく。

本研究の特徴は、「アジアの文化」を共通項としつつ、異なる専門（ディシプリン・地域・時期）をもつ研究者が集まって議論の深化を図ることに求められる。班としての活動としては、個別具体的な調査の蓄積を経て、アジア圏における諸文化の歴史的様相を記述・考察することを基盤に据える。そして、こうした個別の調査研究を出発点として、文化の生成・受容・変容について多角的な視点・知識に即して意見交換・討議をし、文字通り複数化・重層化された文化のありようを具体的に記述・考察していくこととする。単なる個別研究の集積にはとどめず、班員の間でアジア各地の現場に即した調査結果を共有し、またそれをめぐって多彩な観点からの検討を加えて文化への理解を豊かなものにしていく点に研究の特徴が求められる。

【研究活動】

今年度は研究班として初年度ということもあり、具体的な検討作業を行うための前段階として、班員

それぞれが自身のテーマに基づく調査を進展させることに重点を置いた。本研究班の班員による調査活動としては以下のものが挙げられる。

2019年8月27日（火）～2019年8月28日（水）

松本民芸館（松本和也、近代文化・美術関連資料の閲覧・調査）

2019年9月1日（月）～2019年9月2日（火）

白秋記念館（松本和也、近代文化・美術関連資料の閲覧・調査）

2019年9月6日（金）～2019年9月7日（土）

愛知芸術文化センター（松本和也、近代文化・美術関連資料の閲覧・調査）

2019年11月15日（金）～11月16日（土）

名古屋大学（阿部克彦、「国際セミナー 紙と芸術表現 ―ウズベキスタンのサマルカンド紙、イスラーム写本、ミニアチュールを知る」への参加、主催者との意見交換）

2020年1月29日（水）～2020年2月4日（火）

タイ・バンコク（呉春美、小乗仏教国におけるマインドフルネス教育の研究）

また、各班員による調査・研究を踏まえた報告として以下のものが行われた。

2019年10月23日（水）

阿部克彦「ウズベキスタンにおける工芸品フェスティバルについて」（於神奈川大学アジア研究センター）

2019年11月27日（水）

中林広一「文化の捉え方、文化への接し方」（於神奈川大学経済学部会議室）

なお、今年度の班員による調査及び研究報告の一部は以下の形で公刊されている。

中林広一「文化の捉え方、文化への接し方」『神奈川大学アジア・レビュー』7、2020年

松本和也「軍政下昭南市における文化工作（日本語教育）一面——陸軍報道班員・井伏鱒二「花の町」を手がかりに」『立教大学日本文学』121、2019年

松本和也「昭和10年代における鲁迅受容 ―追悼言説と『大鲁迅全集』を中心に」『神奈川大学アジア・レビュー』7、2020年

継続課題

「植民地国家と近代性：アジア諸国を中心とする比較研究

（2018年度～2020年度）」

【研究代表者】 永野 善子（人間科学部教授）

【研究分担者】 〔学内〕 松本 和也（外国語学部教授）、村井 寛志（外国語学部教授）、梅崎かほり（外国語学部准教授）、山本博史（経済学部教授）、泉水英計（経営学部教授）、高城 玲（経営学部教授）、知花愛実（経営学部助教） 小馬 徹（人間科学部非常勤講師）、八尾祥平（経営学部非常勤講師）

〔学外〕 関根 康正（関西学院大学元教授）、福浦一男（桐蔭横浜大学スポーツ健康政策学部准教授）、松岡昌正（秀明大学総合経営学部非常勤講師）

【研究目的】

本共同研究は、19 世紀後半から 20 世紀をととして、アジア諸国において植民地支配もしくは擬似的植民地状況（ポストコロニアルを含めた）を歴史的に経験した諸国・諸地域の国家形成過程を比較研究することを目的としている。その主たる課題は、以下の三つである。

第 1 に、これらの諸地域が複数の帝国もしくは旧帝国の影響を受けながら、社会の近代化を進展あるいは後退させていった諸相を浮き彫りにすることである。

第 2 に、東アジア・東南アジアにおける近代国家形成過程と南アジア・アフリカ・ラテンアメリカ諸地域の状況とを比較することにある。この点は、今日のアジア研究において重要な視点である。アジア地域それ自体がきわめて広大な地域であるため、ともすれば、アジア研究はアジア地域内部の比較研究に特化しがちである。しかし、過去四半世紀にわたってグローバル化が進展したことにより、アジア・アフリカ・ラテンアメリカ各地域の相互浸透が深まってきた。そうした観点から、これらの地域の歴史的特徴を比較すると、もちろん大きな差異が認められるが、いくつかの帝国の支配や影響を受けたことにより、容易には看過できない共通点も存在する。本研究プロジェクトでは、こうした点についても掘り下げた議論を行うために、アフリカやラテンアメリカの研究者を含めたかたちで共同研究を遂行することをめざしている。

さらに第 3 点としては、日本、とりわけ、沖縄からの視点を加えることにより、第二次世界大戦後における日本の政治・経済・文化状況を広義の意味でアジア諸地域の変化のなかに位置づけ、日本と近隣東アジア・南アジア諸国の社会変化における通時的および共時的歴史状況への接近を試みるものである。こうした手法を用いることにより、日本社会のなかで歴史的かつ文化的にもマイノリティの位置を占める沖縄を軸として、日本社会とその歴史的变化を検討しながら、各研究分担者が研究対象とする近隣アジア諸国及びその比較対象としてのアフリカやラテンアメリカ地域における近代国家形成の過程を比較考察することができると考えられる。

そもそも世界各地における今日のグローバル化の受容形態の特徴は、各地域における近代国家形成のあり方と大いに関連しているのではないだろうか。本共同研究では、このような今日の状況を踏まえて、アジア諸国における植民地期（もしくは擬似植民地期）の近代国家形成のありようについて具体的に検討することをその課題とするものである。

【2019 年度の研究活動報告】

1. 公開学内定例研究会

第 1 回：

日時：2019 年 7 月 13 日（土）午後 4 時～6 時

講師：八尾祥平氏（本学経営学部非常勤講師）

論題：「パイナップルのグローバルヒストリー：

ハワイ・台湾・沖縄を結ぶネットワークとして」

会場：横浜キャンパス 3 号館 208 教室

第 2 回：

日時：2019 年 11 月 9 日（土）午後 3～5 時

講師：包茂紅氏（北京大学歴史学系教授）

論題：“Development of agriculture in the Philippines, 1898–1946”

会場：横浜キャンパス 30 号館（新・宮陵会館）B01 会議室

東南アジア地域における 6 次産業ビジネスモデルに関する研究

(2019 年度～2021 年度)

【研究代表者】 高野倉 雅人（工学部准教授）

【研究分担者】 〔学内〕 田中則仁（経営学部教授）、久宗周二（工学部教授）、佐藤公俊（工学部准教授）
〔学外〕 中島健一（早稲田大学社会科学総合学術院教授）、Siti Hawa Radin Eksan（セランゴール国際イスラム大学 KUIS シャリア・法学部講師）、Mohd Helmi Ali（マレーシア国民大学 UKM 経済経営学部シニア講師）、チン・イン・イユ（国立東華大学国際経営学部准教授）

【研究の目的】

2020 年に開催される東京五輪およびパラリンピックまで 2 年を切り、今後も世界から日本への外国人観光客の増加が見込まれている。その中には、中国や韓国など東アジアだけでなく、マレーシアやインドネシアなどのイスラム圏地域からの観光客の増加が予想され、外国人観光客にとって信頼度の高い食品の提供が必要になっている。また ASEAN 地域の経済発展や市場拡大も進んでいる他、東南アジアを中心とした日本食ブーム、日本産の原材料を用いた食品の輸出と販売を狙った日本企業の進出も進んでいる。超高齢社会を迎え人口も減少を続ける日本の食品メーカーにとって、人口が増え急速に経済も発展している東南アジア地域は重要な戦略ターゲットとなっている。

海外から見ると日本の農業・水産業（一次産業）は高い付加価値を持っているにも関わらず、人口減少と少子高齢化の影響で国内生産量は減少を続けている。また生産年齢人口減少の影響で、水産加工など食品製造業（二次産業）での外国人実習生の受入数増加などの取り組みも進んでいる。そして人口減少にともなう国内マーケットの縮小に対応するため、食品メーカーは海外に向けた流通・販売網（三次産業）の構築を進めている。

以上のように日本を中心に東南アジア地域を俯瞰すると、インバウンド・アウトバウンドの両方の視点からの 6 次産業ビジネスモデルが重要であるが、残念ながら特にムスリム人口の多い東南アジア地域において、その実現に向けた取り組みは非常に遅れている状況にある。本研究は東南アジア地域を対象として、6 次産業ビジネスモデルに関する事例を国内および現地で調査し、サプライチェーンの各段階（生産・加工・流通・消費）の現状と課題を明確化する。そして、水産加工業など一次・二次産業に向けた効果的なビジネスモデルの構築、生産から消費までの 6 次産業サプライチェーンのリスク評価および方策提言のための数理モデルの構築と分析を実施する。具体的な 6 次産業を想定して事例研究を行い、構築したビジネスモデルや数理モデルを検証することで学術的な貢献のみならず、企業経営をサポートする実社会への貢献を目的とする。

【2019 年度の研究活動報告】

2019 年度は、8 月に高野倉雅人（研究代表者）と Mohd Helmi Ali（研究分担者）が、マレーシアで開催された 2nd International Food Research Conference (IFRC2019) に参加し、日本におけるハラル食品に関する消費者調査ならびにマレーシアにおける食品産業の労働環境に関する調査の成果について発表した。また久宗周二（研究分担者）とクアラルンプール近郊でのハラル認証食品の現地調査を行い、その成果を News Letter No. 12 に報告した。

10 月には、高野倉雅人（研究代表者）と久宗周二（研究分担者）が、宮城県石巻市にて一次・二次産業を対象に地域特産品を活かした水産加工品サプライチェーンについて調査を行い、ハラル対応などインバウンドおよびアウトバウンド視点の現状と課題について、石巻市の企業ならびに宮城学院女子大学 石原慎二教授と意見交換を行った。その内容を含め、11 月に神奈川大学生涯学習・エクステンション講座「暮らしの中のサイエンス ムスリム・ベジタリアンへの食事の提供」の講演を行った。

12 月には、佐藤公俊（研究分担者）と中島健一（研究分担者）が、石川県金沢市で開催された 20th Asia Pacific Industrial Engineering and Management Systems Conference (APIEMS2019) に出席し、IoT を活用した循環型サプライチェーンにおける生産および発注方策に関する研究成果を報告した。さらに、アジア地域のサプライチェーンマネジメント研究動向に関する情報収集および会議参加者との意見交換を行った。また、昨年度に実施したサプライチェーンマネジメントに関連する研究成果は学術雑誌に掲載される予定である。

3 月には、高野倉雅人（研究代表者）、久宗周二（研究分担者）、佐藤公俊（研究分担者）、チン・イン・イユー（研究分担者）が、台湾におけるヴィーガン・ベジタリアンおよびハラルへの対応について、食品サプライチェーンや消費者意識についての調査を台北近郊ならびに花蓮県にて実施予定である。

【研究成果】

- M. Takanokura, D. Kitayama, M. Ogiya, S.H. Radin Eksan, M.H. Ali: Consumer Awareness of Halal Foods and Their Supply Chain in Japan, 2nd International Food Research Conference (IFRC2019), Putrajaya, Malaysia, August 2019.
- M.H. Ali, N.N. Yusoff, M. Takanokura.: Exploring Malaysia Food Service Industry Dilemma on Migrant Workers, 2nd International Food Research Conference (IFRC2019), Putrajaya, Malaysia, August 2019.
- K.Sato and K. Nakashima: Optimal Pricing Problem for a Pay-per-use System Based on the Internet of Things with Intertemporal Demand, International Journal of Production Economics, DOI: <https://doi.org/10.1016/j.ijpe.2019.08.012>.
- Z. Cong, K.Sato and K. Nakashima: An Optimization Problem in a Closed-Loop Manufacturing System with Stochastic Variability, Procedia Manufacturing, (to be published), 2020.
- Yi, Fang, K.Sato, K.Nakashima: A study on Internet of Things embedded Closed-Loop Supply Chain System, The 20th Asia Pacific Industrial Engineering and Management Systems (APIEMS 2019), Hotel Kanazawa, Japan, December, 2019.
- 久宗周二「クアラルンプール近郊でのハラル認証食品の現地調査」, 神奈川大学アジア研究センター, ニュースレター No. 12, pp. 1-2, 2019 年 12 月.
- 高野倉雅人「講演会報告 ハラルとハラル食品の現状, およびその課題の解決に向けて」, 神奈川大学アジア・レビュー Vol. 6, 2020 年 3 月.
- 神奈川大学生涯学習・エクステンション講座「暮らしの中のサイエンス ムスリム・ベジタリアンへの食事の提供について」(2019 年 11 月)
 1. 高野倉雅人「食の多様化と消費者の安心への配慮について」
 2. 久宗周二「ムスリムに対応した地域活性化」
 3. 石原慎二「石巻市における産学・異業種連携体制による商品開発の取り組み」

継続課題

東アジアの社会遺産と地域再生手法（2018 年度～2020 年度）

【研究代表者】 山家京子

【研究分担者】〔学内〕石田敏明（工学部教授）、内田青蔵（工学部教授）、重村力（客員教授）、曾我部昌史（工学部教授）、趙衍剛（工学部教授）、中井邦夫（工学部教授）、松本安生（人間科学部教授）、孫安石（外国学部教授）、石井梨紗子（法学部准教授）、吉岡寛之（工学部特別助教）、上野正也（工学部特別助教）、須崎文代（工学部特別助教）

〔学外〕鄭一止（熊本県立大学環境共生学部准教授）、西堀 隆史（モンクット王工科大

【研究の目的】

横浜（日本） 台北（台湾） 水原（韓国） 哈爾濱（中国）は、近代において似たようで異なる複雑な国際的背景の中でそれぞれ発達してきた。また各都市には、都市の整備発展過程から外れ、環境的社会的課題を有するさまざまな脆弱地区を抱えている。これらの地区もまた都市の発展過程における複雑な国際的背景を反映している。神奈川大学建築学科はすでに10年間この4つの国と地域の都市との建築教育を通じた交流を継続しており、これら都市の拠点大学である台湾科技大学、成均館大学校、哈爾濱工業大学と協働してこれにあたっている。国際交流事業では、国際交流シンポジウムを通して各大学から集まった研究者たちの間で議論を行うとともに、学生交流設計ワークショップを通して具体的な再生のための設計提案を行ってきた。

この国際交流設計ワークショップが対象としてきた4つの都市の脆弱街区を対象に、アジア研究センター共同研究「東アジア4国際都市の脆弱地区の調査、ならびに環境社会再生への方法の探求」を2013年～2017年に実施した。その成果はアジア研究センター叢書「アジアのまち再生」（鹿島出版会）として出版した。叢書をまとめる際に議論し、新規に着目点として得られたのが「社会遺産」であった。また、この5年の間に、共同研究者の関心、役割分担も明確になっていった。

本研究は、前共同研究で得られた視点をさらに発展させ、アジアの地域・都市再生事例の課題・背景を、社会遺産という観点から調査し、相互比較した上で、国際的議論を深め、再生計画のアジア的計画論を構築しようとするものである。

【2019年度の研究活動報告】

2019年度は、前年度に実施したタイ・バンコクにおける低所得者居住区の調査についてまとめ、2019年12月に公開研究会「タイ バンコク周辺地域の脆弱街区再生事例に関する調査報告」（報告者：神奈川大学工学部・吉岡寛之 特別助教）を実施し、低所得者居住区改善の手法と今後のまちづくりへの示唆点について調査参加者による意見交換を行った。

今年度も2020年2月に中国・広州客家を対象としは現地視察調査を計画し準備を進めていたが、新型コロナウイルスの被害拡大によりやむなく調査を取りやめた。2020年度に改めて実施の予定である。

その他、2020年1月に公開研究会「津波のあいだ、生きられた村」（報告者：首都大学都市環境科学研究科・饗庭伸 教授）を行った。

【研究成果】

- ・ Masaya Ueno, Kyokyo YAMAGA, A Research on Community Involvement Complementing Residents' Association -A Case of Voluntary Community Activities in Yokohama Residential Suburb, 2019 International Conference of Asia-Pacific Planning Societies (Seoul), 76-79 (2019. 8).
- ・ 鄭一止・辻原 万規彦 (2019)「旧三菱重工業熊本航空機製作所の社宅街における土地利用の変遷に関する研究：熊本市健軍エリアを対象として」, 日本都市計画学会, 都市計画論文集 54 (3), 569-576

継続課題

アジア地域の災害軽減化と防災・減災ネットワーク構築に関する研究

(2019年度～2021年度)

【研究代表者】 趙衍剛

【研究分担者】 〔学内〕 荻本孝久（工学部教授）、島崎和司（工学部教授）、山家京子（工学部教授）、佐藤孝治（経済学部教授）

【研究の目的と概要】

アジア諸国では大規模な自然災害が多く発生し、防災・減災の重要性が高まっている。最近では、インドネシアの地震津波津波災害、フィリピンの台風・洪水災害など毎年のように大きな災害が継続して発生している。

本共同研究では、これらの自然災害を中心に被災規模、社会的影響に関する調査を行ってきた成果に基づいて、アジア地域における災害の軽減化に向けて、現地調査を行うとともに。災害研究を行っている研究者、防災対策機関の研究者などとの連携を図り、防災・減災ネットワークを構築して情報交換・意見交換を行って課題の抽出と整理を実施することを目的とする。

そのため、国内および国外においてアジア地域の災害関連の調査・研究の報告書等の収集・整理と情報共有のための研究集会とうを開催して、被災状況の把握と防災・減災に係わる意見交換のための会合を随時開催する。

【研究活動】

- ・事業名称：都市防災およびレジリエンスに関するワークショップ
- ・開催日程：2019年11月1日～3日
- ・開催場所：広州大学
- ・参加者：60名
- ・講演者：
神奈川大学：岩田衛名誉教授、荏本孝久教授、趙衍剛教授、藤田正則教授及び白井由紀助教
広州大学：Prof. Ping Tan, Prof. Airong Liu, Prof. Hai Liu, Prof. Cho Zhang, Prof. Yang Wu, Prof. Zhigang Wu

【海外出張】

1. 荏本孝久、タイ・バンコク「2004年バンコク洪水災害の調査」、1月25日～1月30日
2. 荏本孝久、スペイン・ムルシア市「ムルシア市の地震災害危険度評価に関する共同研究」、3月18日～3月27日

【研究成果】

3. T. Ochiai, T. Enomoto, Analysis on Predominant Periods Distribution by Microtremor Observations for Seismic Disaster Prevention in Yokohama, Japan Using GIS, Journal of Geographic Information System, 579-594 (2019)
4. 落合努, 犬伏徹志, 荏本孝久, 常時微動による地域特性を考慮したハザードマップの作成, 日本地震工学会論文集, 19(5), 5_136-5_145 (2019)
5. 荏本孝久, 横浜駅西口共同防管防災講演会, 「大規模震災時の横浜における被災イメージ～最悪シナリオを想定した場合の課題の抽出と整理～」, 2018年10月11日
6. 荏本孝久, 小田原市技術親睦会講演会, 「今、改めて考える小田原市の地震災害環境と防災」, 2018年11月2日
7. 荏本孝久, 神奈川大学宮陵会「四国ブロック会」記念講演会, 「西日本を襲う大規模災害に対する心構え～連鎖する複合災害への備え～」, 2018年11月17日
8. 荏本孝久, 日本の安全教育専門家と中国教育企業代表との交流会, 「自然災害の軽減化と地域防災～地震災害を対象として～」, 2019年2月10日
9. 荏本孝久, 神奈川大学宮陵会「中国ブロック総会」記念講演会, 「西日本を襲う大規模災害に対する心構え～連鎖する複合災害への備え～」, 2019年3月9日
10. 荏本孝久, 神奈川大学宮陵会港南区・瀬谷区・泉区合同講演会, 「横浜市の地盤と地震災害リスク」, 2019年4月13日
11. 荏本孝久, 神奈川大学札幌宮陵会総会講演会, 「地震災害と防災～北海道を中心として～」, 2019

年 5 月 25 日

12. 荏本孝久, 神奈川工業高等学校講演会, 「安全で快適な都市空間を作るために地盤という視点から地域と建物をみつめる」, 2019 年 8 月 22 日
13. Siqi Lin, Yan-Gang Zhao, Jianming Li. (2019). "An improved wrapping scheme of axially loaded fiber-reinforced polymer confined concrete columns." *Composite Structures*, 226: 111242.
14. Siqi Lin, Yan-Gang Zhao. (2019). "Numerical study of the behaviors of axially loaded large-diameter CFT stub columns." *Journal of Constructional Steel Research*, 160: 54-66.
15. Lan-Lan Yan, Jiong-Feng Liang, Yan-Gang Zhao. (2019). "Effect of high temperature on the bond performance between steel bars and recycled aggregate concrete." *Computers and Concrete*, 23(3): 155-160.
16. Haizhong Zhang, Yan-Gang Zhao. (2019). "A Simple Approach for Estimating the Fundamental Mode Shape of Layered Soil Profiles." *Journal of Earthquake and Tsunami*, 13(1): 1950003.
17. Zhao-Hui Lu, Hai Li, Wengui Li, Yan-Gang Zhao, Zhuo Tang, Zhihui Sun. (2019). "Shear behavior degradation and failure pattern of reinforced concrete beam with chloride-induced stirrup corrosion". *Advances in Structural Engineering*, 22(14), 2998-3010.
18. Zhao-Hui Lu, Yu Leng, You Dong, Chao-Huang Cai, *Yan-Gang Zhao. (2019). "Fast integration algorithms for time-dependent structural reliability analysis considering correlated variables and processes". *Structural Safety*, 78, 23-32.
19. Xuan-Yi Zhang, Yan-Gang Zhao, Zhao-Hui Lu. (2019). "Straightforward Hermite polynomial model with application to marine structures". *Marine Structures*, 65, 362-375.
20. Xuan-Yi Zhang, Yan-Gang Zhao, Zhao-Hui Lu. (2019). "Unified Hermite polynomial model and its application in estimating non-Gaussian processes". *Journal of Engineering Mechanics*, 145(3): 04019001.
21. Chao-Huang Cai, Zhao-Hui Lu, Jun Xu, Yan-Gang Zhao. (2019). "An efficient algorithm for the evaluation of the statistical moments of performance functions". *Journal of Engineering Mechanics*, 145(1): 06018007.
22. Yan-Gang Zhao, Long-Wen Zhang, Zhao-Hui Lu, Jun He. (2019). "First passage probability assessment of stationary non-Gaussian process using the third-order polynomial transformation". *Advances in Structural Engineering*, 22(1), 187-201.
23. Zhao Y.G., Stress paths and mechanical behaviors of confined concrete in axially loaded CFT stub columns, *27th European Advanced Materials Congress*, 11-14, Aug. 2019, Stockholm, Sweden. (Keynote Lecture)
24. Zhao Y.G., Structural reliability analysis without exclusion of the epistemic uncertainty in distribution parameters, *International Symposium on Reliability of Multi-disciplinary Engineering Systems under Uncertainty (ISMES2019)*, Dec. 8-11. Taipei. (Keynote Lecture)

終了課題

東アジアの国際経済・ビジネスの変遷と現状そして今後の展望

(2015 年度～2019 年度)

【研究代表者】 田中則仁 (経営学部教授)

【研究分担者】 〔学内〕 孫安石 (外国語学部教授)、山本崇雄 (経済学部教授)、李貞和 (経営学部特任准教授)、灘山直人 (経済学部准教授)、秋山憲治 (客員教授 経済学部非常勤講師)、石原伸志 (経済学部非常勤講師)、魚住和宏 (経済学部非常勤講師)

〔研究協力者〕 笠原伸一郎 (専修大学経営学部教授)、魏鐘振 (九州産業大学商学部准教授)、松尾仁 (東京福祉大学国際センター特任講師)、孔令建 (常州機電職業技術学院専任教師)

【研究の目的と概要】

研究目的：

「東アジアの国際経済・ビジネスの変遷と現状そして今後の展望」は、2015年4月から組織された共同研究プロジェクトである。東アジアの国際経済情勢を、当該分野の研究者だけでなく、実務家教員を含めた幅の広い研究員で構成してきた。研究者の専門分野では、国際経済の理論や制度論だけでなく、それを基礎とするビジネス分野への応用研究を調査している所員がいる一方で、実務家出身の研究者教員では、30年余にわたる実務経験をもつ方々が参加して研究会を実施した。東アジアを地域として念頭におきながら調査研究し、公開研究会、講演活動、論文発表、刊行物出版などの形で成果を公表し発信することを目的として行ってきた。経済発展の著しい東アジアの経済・ビジネスを、歴史的な経緯を踏まえて現状分析しながら、さらに将来の課題や施策についても検討を加えることを考察した。

本活動報告稿では、これまでの共同研究プロジェクトの議論や研究会の討論を経て、どのような示唆が得られてきたか、その一部紹介したい。尚、2018年度から公開研究会を開始し、これまでの8回にわたる研究会を実施した。今年度の報告者と主題等は下記の一覧の通りである。

研究の概要：

本研究プロジェクトでは、これらの大きく変化していく国際経済・国際経営の現状認識の上で、東アジアにおける新たな国際経済秩序の形成がどのように行われていくのか、また各国政府や国際ビジネスを担う多国籍企業に求められる役割についても検討を加えた。共同研究においては、本学のみならず学外からも第一線で活躍する研究者の協力を得て、理論研究と実証分析のバランスをとった研究を行った。対象地域はアジア地域、産業分野は物流、製造業では家電産業などから実務経験豊富な共同研究者を集めた。この目的を念頭に置いて、各研究者の地道な研究や調査の積み重ねと、相互の啓発を目的として研究を続けた。公開研究会で開催した毎回の研究報告会では、それぞれの専門分野の最新情報が紹介され、議論を深めていった。

研究の成果発表：

共同研究の成果は、2019年11月の所員会議で、2020年の研究叢書出版計画が承認されたことを受けて、8月末をめどに原稿提出し、研究プロジェクト叢書にして取りまとめる。そこでは各産業分野での政策提案や提言も盛り込みながら研究の発信をしていく予定である。

アジアの情勢は日々変化し進化している。2020年1月に中国武漢から発生した新型コロナウイルスの件は、アジア地域の国際経済共同研究プロジェクトにとっても重要な出来事である。国際経済活動が、国家や企業の判断や行動を超えたところで、想定外の外部環境変化にさらされることがあること。その収束のめどをどのようにつけるか、正常化への道筋を明示することが大切である。このような外部経済要因が国民経済にとって重要な影響があることを改めて痛感している。

この国際経済共同研究プロジェクトは今年度でひとまず終了するが、次年度以降、上記の国際経済環境の変化や、アジア地域の多民族多元文化社会の中での、国や企業、人々の共生をどのようにかはるか、アジア地域の平和的和解と多民族共生の道筋などの研究が今後続くことであろう。

【研究活動報告】

公開研究会活動一覧（実施回は前年度からの通算）

- ◆日 時：2019年5月17日（金） 第4回
会 場：アジア研究センター（16号館108号室）
テーマ：「PCビジネスのロジとSCM」
報告者：柴田淳志（武蔵大学非常勤講師）
- ◆日 時：2019年7月31日（水） 第5回
会 場：アジア研究センター（16号館108号室）
テーマ：「一帯一路構想の進展プロセスを考える」
報告者：秋山憲治（神奈川大学アジア研究センター客員教授）

- ◆日時：2019年9月25日（水） 第6回
会場：アジア研究センター（16号館108号室）
テーマ：「日本の教育関連ビジネスの新興国市場における可能性 ―ベトナムとスリランカの事例から―」
報告者：山本崇雄（神奈川大学経済学部教授）
- ◆日時：2019年10月30日（水） 第7回
会場：アジア研究センター（16号館108号室）
テーマ：「アセアンにおけるサービス貿易の可能性 ―物流業に関する規制の調査報告―」
報告者：魚住和宏（経済学部非常勤講師）
- ◆日時：2020年1月22日（水） 第8回
会場：アジア研究センター（16号館108号室）
テーマ：「中国におけるネット通信販売の変遷と展望」
報告者：孔令建（常州機電職業技術学院専任教師）

国内外の調査研究出張

〈国内〉

出張者：李 貞和（所員 神奈川大学経営学部特任准教授）
出張先：日本ヒューリック難波ビル8階（大阪）
日程：2019年12月7日（土）～12月8日（日）
目的：「貿易経営の革新と環境に関するイシュー」シンポジウム発表者の紹介と発表内容の紹介

〈海外〉

出張者：田中 則仁（所員 神奈川大学経営学部教授）
出張先：JETRO バンコク事務所 他
日程：2019年8月23日（金）～2019年8月31日（土） タイ
目的：タイ進出日系企業の調査

【研究活動終了後の研究叢書発行】

これまでの研究成果を、2020年度の研究叢書として刊行することが2019年11月の所員会議で承認された。これをうけて正式に研究叢書の刊行に向けた準備に入った。具体的には、共同研究者に叢書刊行に向けた担当章の主題と副題、見出しの項目5項目、さらに章のキーワードも5項目列挙してもらった。この内容を共有することで、各章担当の研究員が大きな重複がないか、また関連する他の章との見出しの項目との整合性を確認できるようにした。2020年2月時点での章立ては次の通りである。尚、章の順番は今後の編集作業により変更がある。

田中則仁

主題：アジアの国際経済

副題：アジアの貿易と投資―歴史と展望

秋山憲治

中国の「一帯一路」構想とアジア―進展プロセスとアジア諸国への影響―

石原伸志

主題：GMS域内における繊維産業の現状と課題

副題：日本向け衣料品の生産拠点の推移と今後の方向性

魚住和宏

主題：アセアンの食品市場とロジスティクス

副題：成長するアセアン加工食品市場のポテンシャルと課題を探る

山本崇雄

主題：日本型教育ビジネスとアジア新興国の環境変化

副題：広義の「教育」に焦点をあてて

灘山直人

主題：東南アジアにおけるデジタルプラットフォームビジネスの発展

副題：日系プラットフォーム企業による東南アジア進出の事例分析

笠原伸一郎

主題：アジアの航空産業の現状と今後の課題

副題：航空機分業生産の展開と航空輸送ネットワークの形成過程

横川和穂

主題：ロシアの東方シフトとアジア諸国との経済関係の発展

副題：ロシア極東地域を中心に

柴田淳志

主題：家電業界の生産シフトとアジア進出

副題：PC／TV のロジ戦略とサプライチェーンマネジメント

合田浩之

主題：日本海運のアジア展開

副題：本店機能の移転

松尾仁

主題：グローバル化する日本と ASEAN の食料安全保障

副題：食料問題への対応と政策協調の展開

魏 鐘振

主題：輸送モードの高度化と東アジアの貿易構造（案）

李貞和

主題：韓国におけるスマートポート港湾政策

副題：釜山港のスマート港湾戦略

孔令建

主題：中国におけるネット通信販売の変遷と展望

副題：導入と進展プロセス、そして展望

共同研究代表者 田中則仁 経営学部教授